



流域治水セミナー

豪雨から命と財産を守るために～流域治水をみんなで考える～

開催結果

開催概要

- 開催日時：令和8年2月28日（土）14：00～16：00
- 会場：うすい百貨店 1階 イベントホール アトリウム
- 主催：国土交通省・福島県・郡山市・福島大学・郡山女子大学
- 後援：NHK福島放送局・テレビユー福島・（一社）東北地域づくり協会・（公社）土木学会・福島建設工業新聞社・福島中央テレビ
福島テレビ・福島放送・福島民報社・福島民友新聞社（敬称略、50音順）
- 来場者数：330人（延べ人数）

プログラム概要

基調講演①：「流域治水の推進について」～地域をつなぐ流域治水～（14:05～14:20）

国土交通省水管理・国土保全局 治水課 流域治水企画官 田中 里佳 氏

流域治水の取組を推進するには、水とのつながりや地域の歴史や文化とのつながりを見つめなおすことや、上下流それぞれの取組に対し、「ありがとう」を見える化し、流域全体で「ありがとうの連鎖」をつくることが重要であるとお話いただきました。



基調講演①(田中 里佳 氏)

基調講演②：「まさかをのりこえるために～NHK アナウンサーが伝えたいこと～」（14:20～14:35）

NHK福島放送局 エグゼクティブアナウンサー 池田 達郎 氏

過去の災害時における避難行動に関するクイズやNHKの呼びかけの事例を交えながら、災害時に命を守るための情報の受け取り方や日頃の備えの重要性についてお話いただきました。



基調講演②(池田 達郎 氏)

活動報告：「ふくしま気候変動ワークショップ：学生たちからの提言」（14:35～15:00）

郡山女子大学・福島大学 学生

郡山女子大学の学生1名（渡辺 海月 氏）及び福島大学の学生3名（齋藤 滉 氏、香西 凜明 氏、田鎖 陽聖 氏）から、これまで取り組んできた「ふくしま気候変動ワークショップ」の成果を発表いただきました。住民側の視点から、若い世代ならではの地域の未来を見据えた意見が発表されました。



活動報告(渡辺 海月 氏)



活動報告(齋藤 滉 氏)



活動報告(香西 凜明 氏)



活動報告(田鎖 陽聖 氏)



流域治水セミナー

豪雨から命と財産を守るために～流域治水をみんなで考える～

開催結果

プログラム概要

パネルディスカッション「流域治水の取組と自分事化について」(15:00～15:30)

コーディネーター 福島大学教授 川越 清樹 氏

パネリスト

国土交通省水管理・国土保全局 治水課 流域治水企画官 田中 里佳 氏	
NHK福島放送局 エグゼクティブアナウンサー 池田 達郎 氏	
福島大学 渡邊 智寿 氏	
郡山女子大学 渡辺 海月 氏	

流域治水の取組と自分事化について意見交換が行われ、参加者それぞれから以下のとおり流域治水や防災に関するキーワードが出されました。

キーワード 「小さく始める」(田中 里佳 氏) 「防災はオーダーメイド」(池田 達郎 氏)
「まずは今日から」(渡邊 智寿 氏) 「まずは知ること」(渡辺 海月 氏)

パネル展示説明等(15:30～16:00)

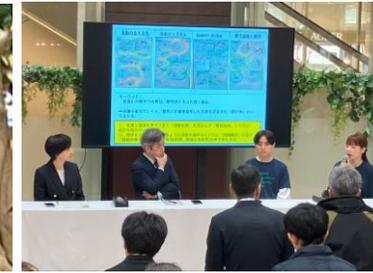
流域治水をテーマとして、以下の内容についてパネル展示等を行い、来場者に対し説明を行いました。

【内容と説明機関】

- ①阿武隈川上流遊水地群の整備について(福島河川国道事務所)
- ②特定都市河川の取組について(県土木部)
- ③河川水位情報と河川監視カメラについて、VRゴーグルによる水災害疑似体験(県土木部)
- ④マイ避難の取組について、県防災アプリの案内(県危機管理部)
- ⑤気候変動ワークショップについて(県環境共生課)
- ⑥郡山市内の流域治水の取組について(郡山市)



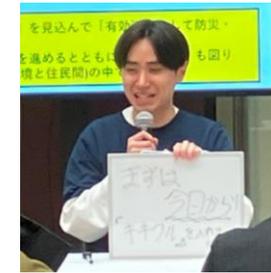
コーディネーター
川越 清樹 氏



パネルディスカッション



パネル展示
(気候変動ワークショップ)



パネリスト
福島大学 渡邊 智寿 氏



パネル展示説明



県防災アプリの案内



VRによる水災害疑似体験



阿武隈川上流遊水地群模型展示

来場者からの声

- ・防災には、ハード・ソフト両面の対策が必要であると改めて感じた。
- ・流域治水には、山林保全の取組も重要だ。
- ・今回のようなセミナーを郡山市だけでなく各地で開催することで流域治水について身近に感じてもらえると思う。
- ・基調講演や学生発表の内容が分かりやすく、時間配分もちょうどよかった。